

## 会議録

- 1 会議の名称 図書館協議会
- 2 開催日時 令和3年11月1日(月)午後1時30分～3時
- 3 開催場所 熊取町立熊取図書館 2階ホール
- 4 議題  
案件1 委員長・副委員長の選出  
案件2 第4次子ども読書活動推進計画について  
案件3 今後の図書館サービスについて  
案件4 その他
- 5 公開・非公開の別 全部公開
- 6 傍聴者数 1人
- 7 審議会等の概要

### ●案件1について

委員長に山本委員、副委員長に森本委員が選出された。

### ●案件2について

#### 【事務局からの説明】

「熊取町第4次子ども読書活動推進計画(たたき台)」への意見等を、子ども読書活動推進連絡協議会や図書館協議会の他、関係団体から意見聴取し、「熊取町第4次子ども読書活動推進計画(素案)」として修正したので、特に大きく変更した箇所を中心に説明を行った。

#### 【委員からの主な意見・感想等】

○素案P. 1の2段落目の最初の文章は「教育委員会では」が主語で、その後の文章では「計画作りを中心となって進めた図書館では」としているが、教育委員会が出す計画なので、「図書館では」と改めなくても良い。

○修正したことで1文が6行を超えるものがあるので、再度見直してもらいたい。

○子ども読書活動推進連絡協議会専門部会で議論になったことはあるか。

→SDGsの視点は入れる方がよいという議論があった。

○計画を作っている事務局として、これまでと違った意気込みはあるか。

→子どもの図書館利用が減ってきている中で、定着化を目指す何かを考える必要があると考えて

いる。また、懸案の学校図書館の情報化を進めていきたい。情報化することで先生や生徒にとって学校図書館が便利になり、また、学校図書館司書が生徒への本の紹介や先生との調べ学習の協議に時間を費やすなどの読書活動を推進していきたい。

○本の置き場所のスペースを無くしたい家庭では、電子図書を子どもに勧めることもあると思う。

○本に慣れ親しんでいる子どもでも、何かを調べるときは図書館に行かずに、パソコンで調べている。

○中学校の調べ学習では、本とタブレットを両方併用している。タブレットは時間短縮ができて、いろんな情報を検索できるが、それが正しいとはいえず、また、いろんな意見があるので、きちんと調べなければならない。本で調べるには時間がかかるが、その分野以外のことを調べることができる。それぞれ良い点悪い点があり、いいところ取りをしながら進めている。

○図書館に行って自分で調べたり、家族と一緒に調べたりして知った喜びを味わう体験がとても大切。学校図書館でも子ども自身が調べ学習をすることの楽しさが、これからもっと必要になってくるので、学校図書館司書の力も借りながら調べ学習をやっていただくことが大切。

○中学生の時に本離れが進むが、計画の中に中学生の読書推進が含まれていて、図書館が本とつないでくれる、考えてくださるといことが心強い。

○計画にSDGsのことを入れていただいたことは、図書館が持っている役割として、4番の「質の高い教育をみんなに」を中心に、さまざまな特徴が教育を通して絡み合っていくことにかかわるので、「貧困の連鎖を繰り返さない」「ジェンダー」の問題など、いろいろなことに取り組むことができると思う。

○前回の意見から「資料2」⑮も付け加えていただいているのでよいと思う。障がいのある子どもや図書館利用が難しい子どもに、ただ単に何かをするだけでなく、その子どもたちへの支援のネットワークの中に図書館も入っているんだというイメージが、No.67（実施計画）のところに追加されてよかった。

○最近ではウェブサイトを読むのも面倒だから、動画で誰かが話しているものを見て聞く流れになってきているので、図書館にある本などの利用はニーズが減ったというより、利用の仕方が他にシフトしていると思う。文字で書かれたものを自分の頭の中で想像したり自分の経験に結びつけたりして、成長や発想の広がりにつながっていくことが、他の媒体との競争になっていけるのかなと思う。

○計画は来年の4月のスタートなのか。

→11月中にまとめて、12月の議員全員協議会で説明・報告し、その後1月の定例教育委員会で議案で提出し、策定の方向で考えている。

### ●案件3について

#### 【事務局からの説明】

利用促進のために、図書館が取り組んでいることとして、職員研修で実施したワークショップや、来年度予定している住民団体との協働事業について説明。

【各委員からの主な意見・感想等】

○住民提案協働事業（行政提案型）は、どんな世代が対象なのか。

→図書館はこれまでの子ども読書活動推進計画により、乳幼児とその保護者や保育所については、いろんなことができてきたと思うが、今回の協働事業は、小中学生世代とその保護者世代をターゲットにしようと考えている。

○学校の保護者会などに定期的に図書館からのお知らせができないか。利用が少ない保護者に向けて、直接渡せるような、例えば推薦図書のご案内などはどうか。学校の方は難しいか。

（委員から）学校は機会があれば配らせてもらうが、まだコロナの関係で授業参観も中止にしている学校もあるので、コロナが収束したら授業参観の時でも資料を配ることはできる。

→検討する。

○行政が直接やりにくいようなことを住民と一緒にになって課題を解決していく住民と行政の協働は、自治協働の中では大切だが、この行政提案型協働事業が今後も継続するならば、これを活用していろいろなことをやっていけばよいと思う。

○煉瓦館ができる前の年にワーキンググループのメンバーとして、いろいろな催しを企画して行った。それも1つの住民による提案型で、行政と一緒に形にしていくことができた。一般の人がワーキンググループを作ってみんなで協議していける場所があったからできたので、そのような参加できる環境づくりをすることがよいと思う。

○10月の末に行われた図書館職員研修のワークショップ「図書館について考えよう」について聞かせて欲しい。

→ローテーション勤務の中、職員全員が集まる日が年に数回だけで、日頃職員同士が何を考えているか、日々カウンターに立ってどういうことを感じているか、意見交換する機会も少なく、全員が集まったときに、利用促進をテーマに意見を出し合って、問題意識を共有した。

○何か楽しく仕事ができるという提案はあったか。

→今回は仕事のやり方というよりは、サービスというところにテーマを置いていた。中には「利用者と仲良くなる」「利用者からいろいろネタをもらう」「さまざまな仕掛けやきっかけづくりが大事だ」など、利用者とのふれあいのものがあつた。また、今の図書館ボランティアは、こちらからお願いしている活動で、「コンサートの補助スタッフ」「本の修理」「布の絵本の製作」というテーマがあるが、最近自身の持つ技能等でフリーでボランティアを希望される人が出てきている。そういう人たちに、まずボランティア登録をしてもらい、何かをしてもらえるようになればと話をしている。

○館内で自分たちで研修するのも大切だが、職員は外に出て行かないといけないと思う。「まちなの様子をどれだけ知っているか」「まちなの人たちとどんなふれあいをしているか」「行政職員と日頃どういう付き合いをしているか」はとても大切で、そのことが図書館資料に結びつくし、職員の司書力アップになってくる。もちろん図書館界の他の研修に出かけることも大切だが、「音楽を聴く」「芸術に触れる」こともとても大切なことで、司書が豊かにならないとよいサービスができないと思うので、どういうふうに豊かに司書力を付けるか研修をして欲しいと思う。

○公務員は個人情報暴露してはいけないが、それを活用することは重要。例えばこの図書館を

持続させるためにこの人に協力して欲しいということが考えられる。それをそれぞれの公務の職場の人たちがやっていると、まちづくりに使える個人情報を活用できる。だから職員がキーマンとなり、施設を持続させる推進力になる。そういうワークショップをやったらどうか。

○調べる学習講座に参加した子どもが、学校の先生や専門の先生に刺激を受けて楽しく過ごせたようなので、夏休みだけでなくそういう機会がたくさんあれば、参加する人数もそれだけ増えてくると思う。

○不登校や自殺する子どもがコロナ禍で増えたと聞くが、役場は子どもにとって仰々しくて行きにくいので、図書館に居場所があれば救われる子どもが増えると思う。

○熊取には大学という財産があるので、それも含めて広く知られるようになれば、もっと面白いまちになると思う。ぜひ多くの情報が行き来するようなまちの仕組みを作って欲しい。

#### ●案件4 その他

##### 【事務局からの報告等】

○東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センターと児童書の出版社であるポプラ社との共同研究プロジェクト「写真でみる 公立図書館・図書室の乳幼児・保護者のためのスペース事例集」に熊取図書館の赤ちゃんコーナーが紹介された。それに関連して、図書館総合展のポプラ社のブース「公立図書館と学校図書館・幼保施設の連携／こどもの読書環境を豊かにするためにできること」で、高月が発表する。

○次回の図書館協議会は2月～3月で開催予定。

8 審議会の情報	名称	図書館協議会
	根拠法令等	図書館法、図書館条例
	設置期間	平成6年4月1日～
	所掌事項	図書館の運営に関すること
	委員数	10名

9 担当課	図書館
-------	-----